

東京水道株式会社

将来が期待される日本最大級の水道トータルサービス会社
 —豊富な経験と確かな技術力であらゆる水問題の解決を目指す

ここに注目!

東京都の政策実現の一躍を担う「政策連携団体」(*)として、持続性・発展性がある安定した財政基盤を持ちながら、事業の独自性と技術力の高さを誇る

私たち人間だけでなく、あらゆる動植物の生命維持に欠かせないのが水。東京の水道の一日平均配水量は421万m³で、東京ドームの約3.5杯分。給水人口は1350万人。東京水道株式会社は東京都水道局と共に構成する「東京水道グループ」の一員として水源から蛇口までの技術系業務、カスタマーサービス、ITの分野で首都東京の水道システムを支えている。令和元年度の売上は約290億円、事業拠点は、都内を中心に74箇所、従業員数は2600人を超える、ビッグカンパニーなのである。

東京都の政策連携団体として活動

東京水道は令和2年4月1日、東京都水道局の現場業務をそれぞれ担ってきた東京水道サービス(TSS)とPUCが合併して誕生

した新しい会社である。代表取締役社長の野田数氏は「当社は、政策連携団体として公的な業務を行っています。株式会社の形態を活かし、柔軟で効率的な運営が可能です。都水道局は、政策連携団体の活用等により、25年間水道料金を値上げせずにお客さまに安全でおいしい水を提供してきました。新会社の発足で経営基盤の強化と効率化を進め、今後も安価で高品質な水道水の供給に寄与してまいります」と語っている。民間企業でありながら、都の行政運営を支援・補完するだけでなく、現場で培った技術やノウハウを活用し、企画・立案を担う「政策連携団体」であるのが同社の大きな特徴でもある。

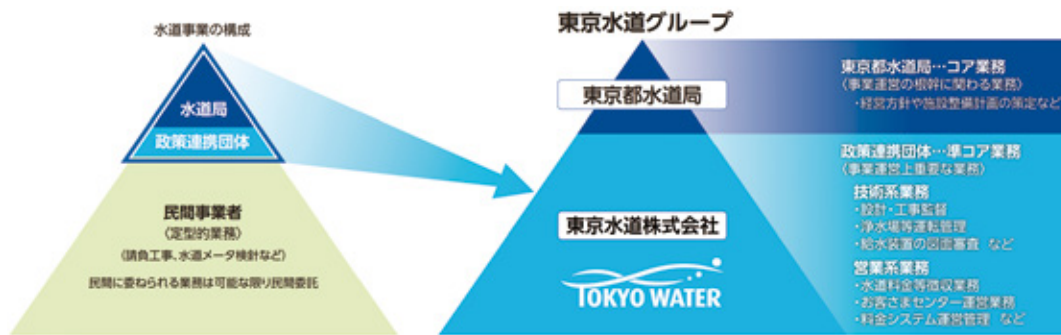
同社の主な業務は東京都水道局の技術系現場業務及び料金徴収業務、お客さま窓口やコンタクトセンター(お客さまセンター)の運

営など。一社で水道のほぼすべての事業範囲をカバーし、IT事業部門も備えた「日本最大級の水道トータルサービス会社」である。

令和元年10月に施行された改正水道法を契機として、今後日本国内では、水道事業の広域化や官民連携の機運が高まることが予想されている。同社のもつ技術力と専門知識は、各水道事業体の課題解決に欠かせない。それは国内だけでなく、海外においても同じで、世界最高水準の技術とノウハウを活かし、途上国などの水道システムの構築や運営サポートを行っている。

独自性の高い事業と高い安定性、技術力が強み

東京水道の強みは「安定性、独自性、人材力、技術力、社会貢献性にあります」と野田社長は語る。東京都が株主(持株比率約



東京水道グループの業務運営体制とグループが担う基幹的業務

※「政策連携団体」東京都が出資し、継続的に都に都派遣職員を受け入れるなど、都と事業協力を行う団体のうち、都と政策実現に向け連携するなど、特に都政との関連性が高い団体



▲インフラメンテナンス大賞の「厚生労働大臣賞」を受賞



▲水道事業部門やIT事業部門など、様々な業種で若手社員が活躍し、水道インフラを支えている

80%)であり、財政基盤は安定している。また、事業は「東京都水道局の準コア業務」であり、民間企業の事業と一線を画す、重要性の高い事業となっている。

さらに、東京都水道局との連携による研修や、充実した人材育成制度により、現場で培われた総合的な技術力や水道事業の運営ノウハウを習得でき、研修を受けた若手社員が即戦力として活躍している。

人材とともに同社が誇るのは技術力の高さ。令和元年10月、同社が共同開発した漏水発見器「TS リークチェッカー」を活用した漏水発見手法が、第3回イン

フラメンテナンス大賞を受賞した。これは日本国内のインフラのメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰する格式の高い賞のひとつでもある。

社会貢献性に関して野田社長は「水道事業は、お客さまにいつでも水道を使っていただけるよう、24時間365日、安全でおいしい水を安定的に供給し、水道インフラとして都市活動を支える社会貢献度の高い事業です。また、当社は地震などの災害時には水道局と連携し、応急給水活動や水道施設・管路の被害状況や応急措置、漏水発生状況の調査などを行い、災害時の都民生活を支える役割を

担っています」と語っている。現在は、積極的なコロナ対策を実施している。これはライフラインを担っている同社が、コロナ対策を危機管理対策の実践のひとつと捉えているためだ。「当社は、危機の時こそ頼りになる水道事業を目指し、社員の安全管理を徹底した上で、都民のライフラインを守っています。東京都水道局からは、この先10年から20年かけての技術系、営業系の現場業務を移転する方針が示されています。この業務拡大に備え、積極的に人材を採用していきます」と野田社長は語ってくれた。これからも東京水道から目が離せない。

わが社を語る

代表取締役社長
野田 数氏



世界最高水準の技術力で都民の水を守る

東京の水道はかつて西新宿にあった淀橋浄水場から通水を開始して以来、令和3年で123年を迎えました。近代水道の普及により都民の衛生環境が向上し、首都東京の繁栄に寄与してきたといっても過言ではありません。東京の漏水率はわずか3%程度で、ロンドンの約26%や、ニューヨークやパリの約8%の世界の大都市と比べても高い水準を誇っています。当社は、この

先人が築いてきた東京水道の歴史を受け継ぎ、世界最高水準の技術と専門性によって、水道を支えるという重責を担っています。このことは当社の誇りそのものです。私たちは将来にわたり、都民国民の皆さまに安全でおいしい水を安定的に供給し続ける役割を担い、さらには、東京で培った技術とノウハウで国内外の水問題の解決に貢献してまいります。

会社 DATA

所在地：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー37階
 創業：1966年8月
 代表者：野田 数
 資本金：1億円
 従業員数：約2,600名

事業内容：管路施設管理事業、浄水施設管理事業、コンサルティング・調査事業、カスタマーサービス事業、ITサービス事業等

URL：https://www.tokyowater.co.jp/

